

コラム2 市民と行政の協働による水辺再生事業について

- ▼最近、公園内の大池では、毎年のようにアオコが発生し、景観の悪化やカビ臭が発生しています。平成25年には埼玉県大久保浄水場から、大池のカビ臭が水道水の水質に影響しているとして改善指導を受けたこともあり、池の水質が人々の生活に影響を与えかねない状況でした。
- ▼このため、市では平成30年度に「上尾丸山公園大池かいぼりシンポジウム」を開催し、翌令和元年度に「かいぼり」を実施しました。かいぼりとは農閑期に農業用ため池の水を抜き、泥の掻き出しや護岸の修繕、池底の天日干しなどを行う作業のことです。近年は、外来種の駆除や水質改善を目的として公園の池でも実施されています。
- ▼大池のかいぼりは令和元年11月に池の水を抜き始め、12月21日・22日の2日間で「上尾丸山公園大かいぼり祭(魚釣りイベント)」を行いました。畠山市長はじめ、市民ボランティア、地域団体、市関係者など約270名が参加しました。このかいぼりでは、在来種の豊かな自然を再生し、水質改善へつなげるために、魚釣りだけではなく、池底の天日干しや池の中に水深が浅い湿地のような環境を創出する浅場造りにも取り組みました。このとき捕獲した在来種は園内の別の池で保護し、外来種は駆除しました。
- ▼かいぼりや浅場づくりは、市民と行政の協働で行いました。かいぼり前に公募し、事前に研修を受けた市民ボランティア「上尾水辺守(あげおみずべもり)」と、小学生以上を対象にした当日参加の市民ボランティアが集まり、多くの方々にご協力いただきました。上尾水辺守は、かいぼりが終わった今年度も、上尾丸山公園の生き物調査や外来種の駆除、市民への普及啓発活動等の水辺再生活動にご協力いただいております。
- ▼このように市民参加型の事業としたことで、市民が、池の中に入ったり、魚捕りをしたり、普段は見るのが難しい在来種を見つけたりと、日常生活では体験することが難しい自然体験ができたことや、上尾丸山公園に愛着を持っていただくきっかけになったと考えております。
- ▼今年度は、上尾水辺守と当日集まった市民ボランティアとともに、かいぼりでは駆除が難しいアメリカザリガニなどの外来種の駆除イベントを行っています。このイベントは、外来種が自然環境に与える悪影響を普及し、自然を再生するためには外来種の駆除や環境の整備を行うことが大切だと知っていただくことを目的としております。



かいぼり前の大池のアオコの様子



大かいぼり祭の集合写真